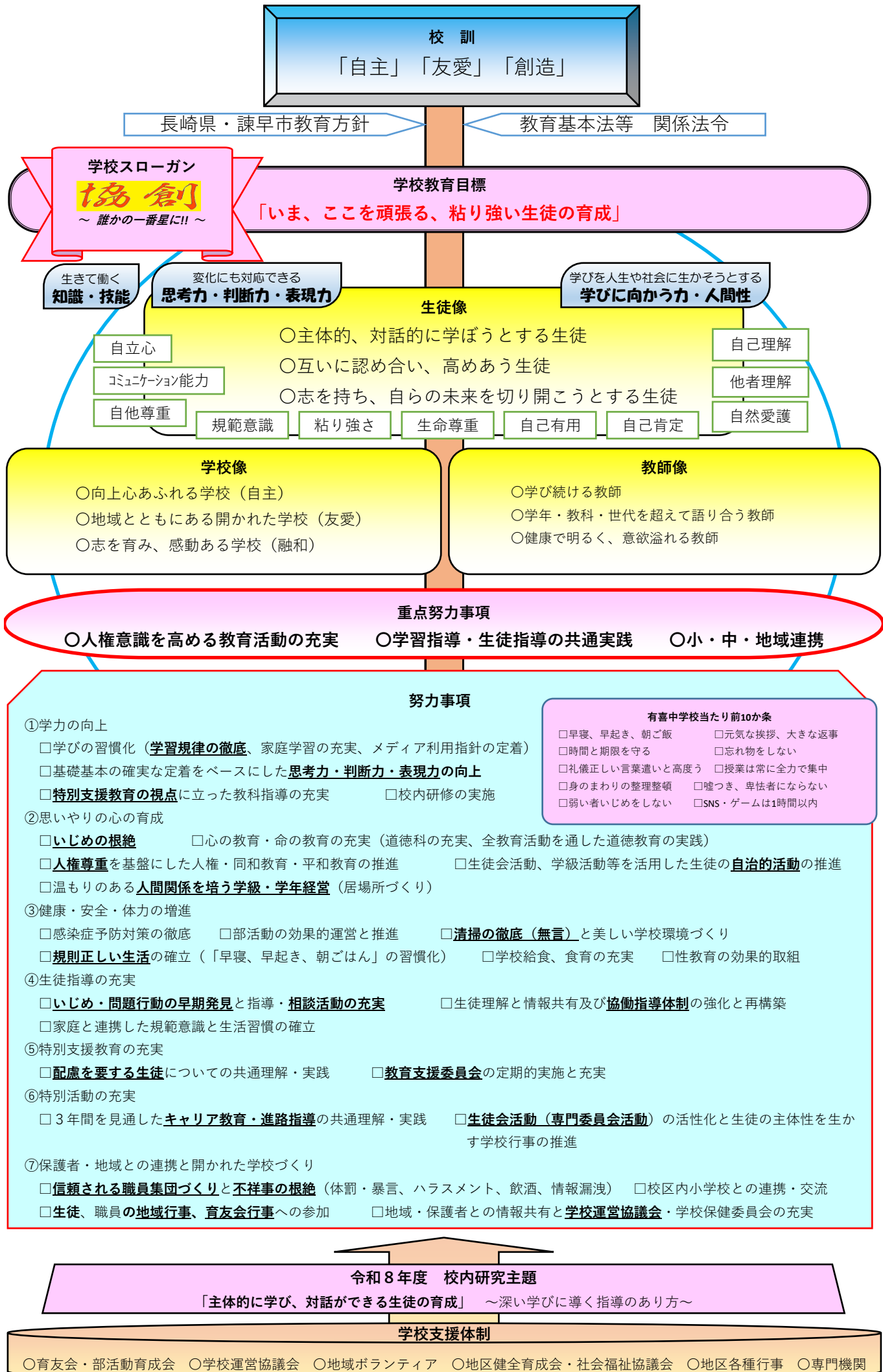




有喜中学校 教育方針

人間尊重の精神を基調として、郷土および国家を担う責任を自覚し、国際社会で信頼され活躍する広い心、健やかな体、豊かな創造力をもった生徒の育成に努める。特に、地域や生徒の実態を基盤とし、教職員の総力をあげ、地域に根ざした校風の樹立に努める。



(1) 常に、学習指導要領、県、市、学校の教育目標を意識して教育活動を行う。

○「目標のないところに、効果的な実践はありえない」

常に、学習指導要領の趣旨、県、市、学校の教育目標を意識するとともに、目の前の生徒の変化を的確に捉え、その後、何をするのがその生徒の成長に役立つのかを考えながら教育活動に当たる。

(2) 「学校の主人公は生徒である」

○“生徒の健全な成長のために”を最優先させて、すべての教育活動を計画・実践・評価する。併せて、“生徒は発展途上の未完成な存在である”“成長の度合いには個人差がある”を常に意識し、指導を焦らない、急ぎすぎないことも常に心に留めておく。

○生徒を変えることは難しいが、教師が変わることはたやすい。固定化した生徒観、指導観ではなく、目の前にいる生徒の実態に即して、柔軟に指導を展開する。周囲からのアドバイスも積極的に受ける。

○生徒との信頼関係なしには、いかなる教育効果も期待できない。生徒全員を公平・公正に扱うとともに、一人一人に寄り添い温かく接し、かつ厳しく育てる。学年・学級経営が基盤である。

○地域や保護者との連携・信頼なしに教育は進められない。特に、保護者からの相談等には誠意をもって対応し、保護者に安心感と信頼感を与える。「誠意」とは、「スピードと回数と継続」である。

(3) 「『思いやりの心』『自尊感情・自己肯定観』を持たせる」

○道徳科をはじめ、すべての教育活動をとおして、思いやりの心、人権意識、規範意識の醸成に努める。

○生徒の人格形成には、日々の教育活動の中で達成感・充実感を感じさせることを通して『自尊感情・自己肯定観』を持たせることが大切である。日々の授業や生活、学校行事などをとおして、教師は生徒の良い面を意識して発見することに努め、それを本人や保護者に積極的に伝えることに心がける。

○生徒には、職業選択を含め、将来設計をさせていく中で、将来に対して明るい見通しを持つように支援する。そのため、教師は、機会を捉え、積極的に自分の夢や希望、体験を語り、“生徒にとってよき職業人のモデル”となるように努める。

(4) 「常に、学び、吸収し続ける教師」

○学校の教育活動の中核は授業である。まずは、授業の質を高め、生徒に確かな学力を育成することに全力を傾注する。教科の指導力だけではなく、道徳科・特別活動・総合的な学習の時間の指導力を高める努力をするとともに、学級経営力、生徒指導力の向上も常にめざす。

○“教育は人なり”“学び続ける教師のみ、教える資格がある”と言われる。広く、高くアンテナを張り、求めて謙虚に学び、新しい知識、指導方法等を身に付ける。

○“流行”のみを求めるのではなく、“教師としての不易”を大切にす。いつの時代も、学力向上のためには、よい教材と深い教材研究、生徒の実態に合わせた複数の授業展開案、形成的評価とその結果に応じた個に応じた（寄り添った）指導が必要である。

(5) 「学校は、有機的な組織体」

○教育は、校長が示す学校経営方針・学校教育目標に従い、複数の教師が同一方向を向いて指導することで効果が上がる。生徒のために、それぞれの立場で何をすべきか、何ができるかを自問し、各人の特性を十分に生かして学校経営・運営に参画する。

○組織で動いていても、各自に分任された仕事は責任をもってやり遂げなければならない。担当している教育活動の目的・位置づけを常に明確に把握しながら、他の職員との連携「報告・連絡・相談・確認」を密にし、企画・実践にあたる。

○良い実践は、生徒の姿として必ず現れる。“これまでどおり”ではなく、そのときそのときの生徒の実態に合わせて吟味し、“よりよいものに変えていく”という意識を常に持つ。“現状維持は後退”と捉える。

(6) 「服務は厳しく、人間関係は温かく」

○教育公務員としての立場を自覚し、自己の言動に責任をもつ。時間厳守・期限厳守、清潔・清楚に心がける。

○“体罰・暴言、ハラスメントは厳禁”とする。人権を脅かしたり人間関係を崩壊させたりする言葉の暴力も厳禁とする。

○職務上の義務だけでなく、身分上の義務も常に自覚する。すなわち24時間教育公務員であり、いかなる場合も信用失墜行為をしてはならないことを自覚する。特に、飲酒運転・情報漏洩が絶対にならないようにする。

○“明るく活気ある職場でなければ、明るく活力ある生徒は育たない”を念頭に、組織の一員としての自覚を持ち、互いを尊重して支え合い、笑顔と笑い声があふれる職場でありたい。

※ 「今ある生徒の姿は、教育の結果である。」